

# LOBO 調査

## 早期景気観測

4月分 日商調査日 4月6日～18日  
当所調査日 4月6日～19日

### LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

#### 日商調査

4月の全産業DI ▲25・7  
(前月比+7・0ポイント)

日常生活の回復が進み、再開した春のイベントや県民割などの需要喚起策で客足が戻りつつある外食・宿泊関連のサービス業や、堅調な電子部品や飲食品関連などに下支えされた製造業で業況が改善した。

一方、資材の供給不足や設備機器の納期遅れで工期が長期化する建設業で業況が悪化した。

また、業種を問わず、対露制裁や円安の急伸により、原油などの資源価格や原材料価格などの高騰が加速化したことが、収益の圧迫要因となっている。加えて、価格転嫁の遅れも収益回復の足かせとなっており、中小企業の景況は2カ月連続で改善しているものの、まん延防止等重点措置が出ていた昨年4月と同水準の回復に止まっている。

#### 中小企業の景況感

#### 先行き

先行き見通しDIは▲28・0（4月

比▲2・3ポイント）。

コロナの沈静化による活動回復に加え、大型連休での消費拡大に期待感が高まる一方、感染再拡大を恐れて、観光やイベント参加を控える動きを懸念する声が寄せられている。また、ウクライナ危機の長期化、原材料・資源価格などの高騰や円安が今後も進行することへの不安感は拭えず、さらなるコスト増の警戒感は強く、先行きは厳しい見方が続く。

#### 【関東ブロックの業況についてのコメント】

ゴールデンウィークでの帰省や行楽客の増加による好転を見込んでいますが、原油などの資源価格や仕入コスト増による収益悪化を懸念する（総合スパー）。

まん延防止等重点措置も解除され、経済活動の回復を見越して採用活動を行っているが、成果は出ていない（飲食業）。

#### 【当所調査】

#### 「まん延防止、人出増え」

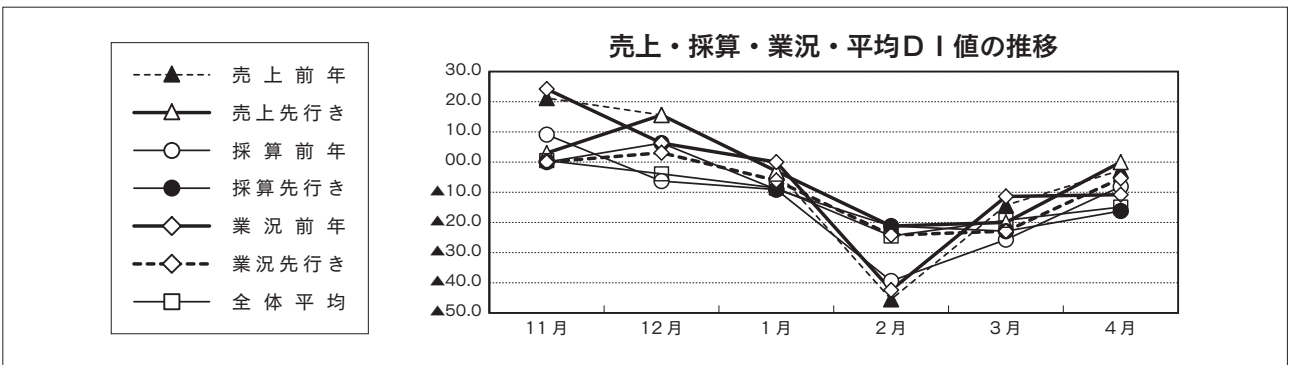
全体平均DIは▲14・9で前月に比べ4・4ポイントの好転。項目別では、売上先行き+20・0ポイント、採算前年+17・6ポイントの好転が見られた。コメントには、「まん延防止措置が解除されイベントなどが徐々に増えてきて好転している（労働者派遣業）」、「ガソリンの高騰や材料の値上げで業況は厳しい（板金工事業）」など、人流が戻りつつある一方、材料費高騰や円安などが先行き不安要素になっている。

(全産業)

### 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移)

(サンプル数40社)

項目	令和3年			令和3年			令和4年
	4月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
売上前年	11.4	21.2	15.6	▲ 3.0	▲ 45.5	▲ 14.3	▲ 2.7
売上先行き	▲ 2.9	3.0	15.6	▲ 3.0	▲ 21.2	▲ 20.0	0.0
採算前年	▲ 2.9	9.1	▲ 6.3	▲ 9.1	▲ 39.4	▲ 25.7	▲ 8.1
採算先行き	▲ 20.0	0.0	6.3	▲ 9.1	▲ 21.2	▲ 22.9	▲ 16.2
仕入前年	▲ 28.6	▲ 51.5	▲ 65.6	▲ 51.5	▲ 54.5	▲ 68.6	▲ 78.4
仕入先行き	▲ 28.6	▲ 57.6	▲ 56.3	▲ 48.5	▲ 51.5	▲ 60.0	▲ 73.0
社員前年	20.0	21.2	18.8	15.2	15.2	17.1	18.9
社員先行き	14.3	21.2	18.8	27.3	15.2	20.0	16.2
業況前年	▲ 8.6	24.2	6.3	0.0	▲ 42.4	▲ 11.4	▲ 10.8
業況先行き	▲ 17.1	0.0	3.1	▲ 6.1	▲ 24.2	▲ 22.9	▲ 10.8
資金前年	▲ 5.7	15.2	▲ 6.3	▲ 9.1	▲ 18.2	▲ 11.4	▲ 8.1
資金先行き	▲ 11.4	0.0	3.1	▲ 6.1	▲ 6.1	▲ 11.4	▲ 5.4
全体平均	▲ 6.7	0.5	▲ 3.9	▲ 8.6	▲ 24.5	▲ 19.3	▲ 14.9



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。